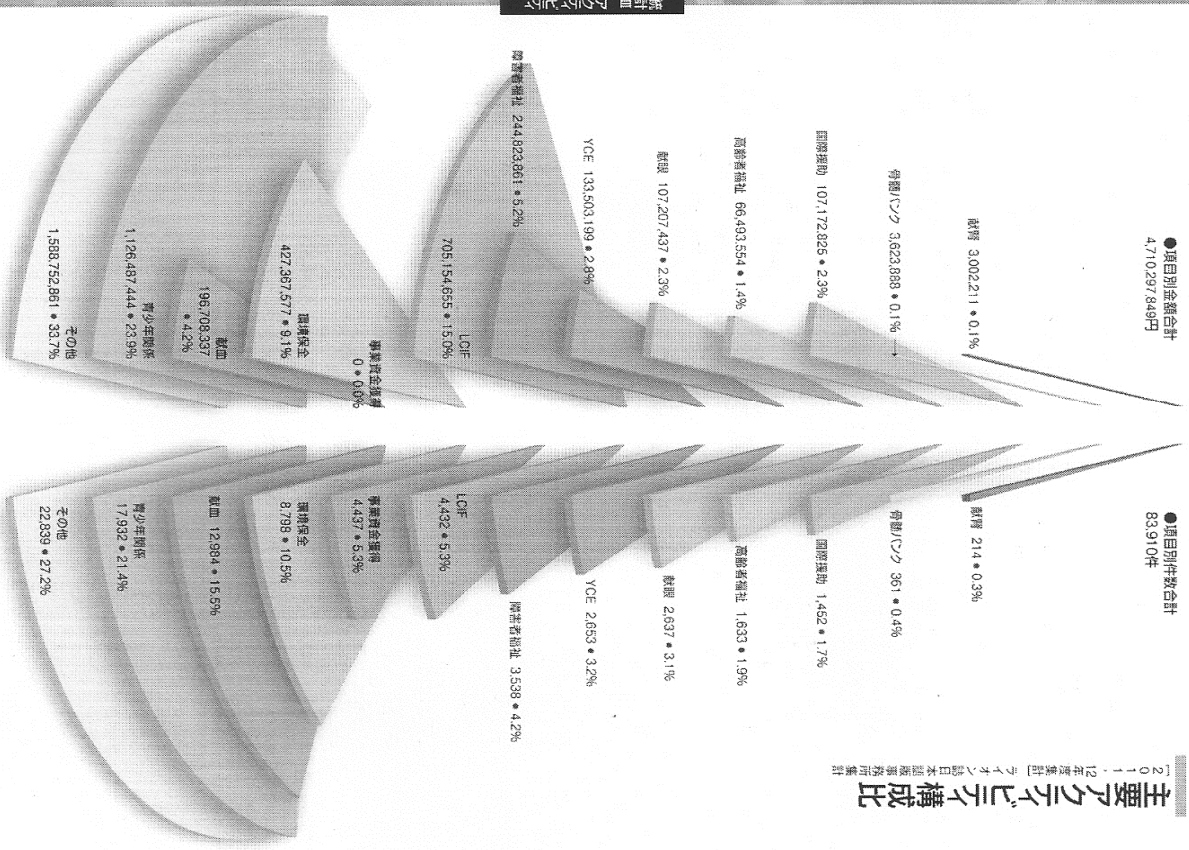


ライオンスクラフ統計

●項目別金額合計
4,710,297,944円

●項目別件数合計
83,910件



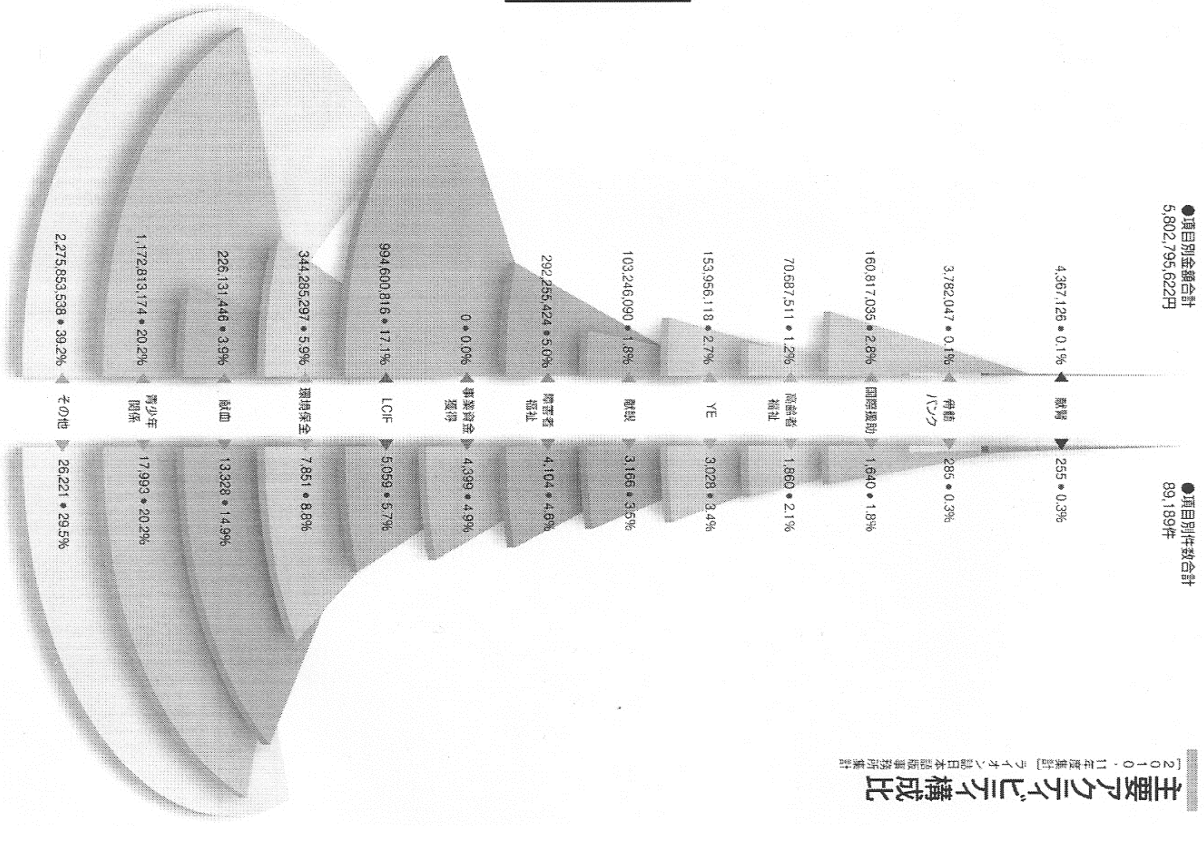
主要アライメント構成比
2011年度集計 [ライオン] 日本経済連事務所集計

13 LION 2012年10月号

ライオンスクラフ統計

●項目別金額合計
5,802,795,622円

●項目別件数合計
89,189件

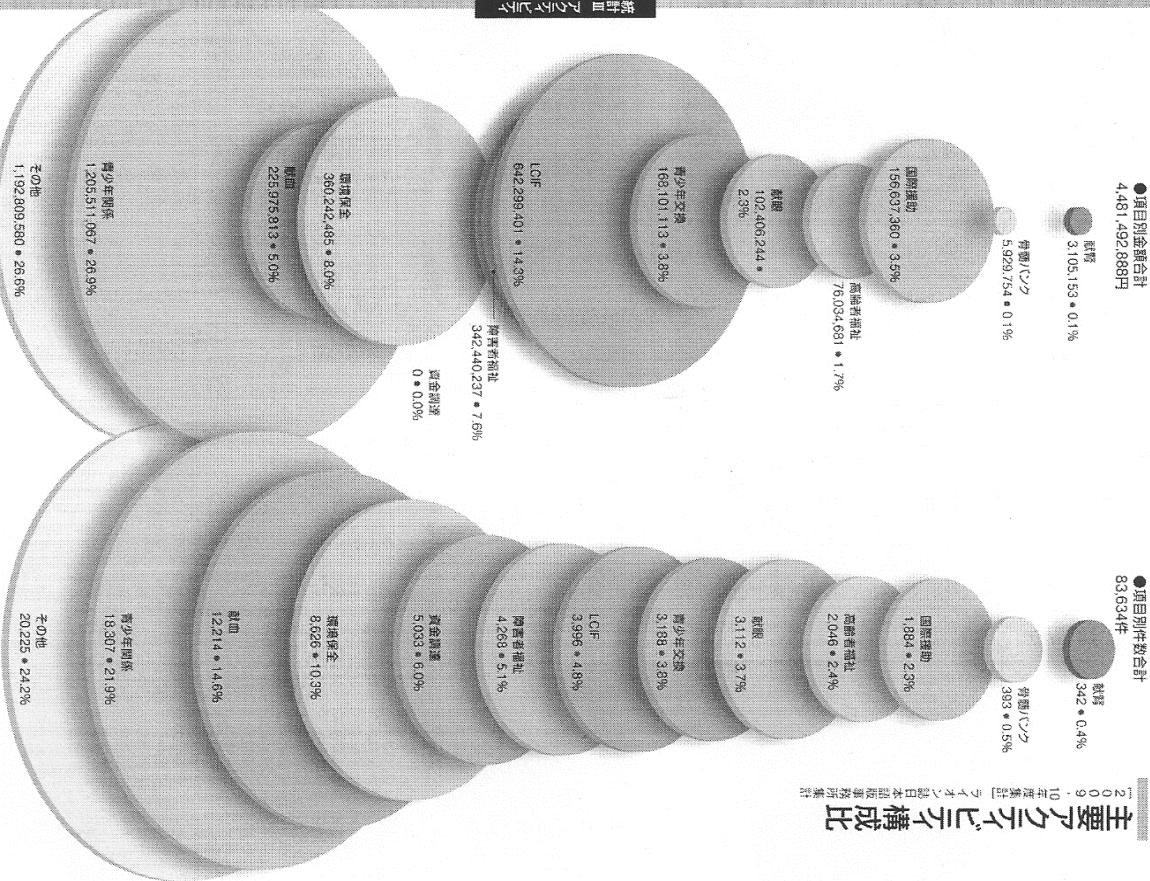


主要アライメント構成比
2010年度集計 [ライオン] 日本経済連事務所集計

11 LION 2011年12月号

主要アライメント構成比

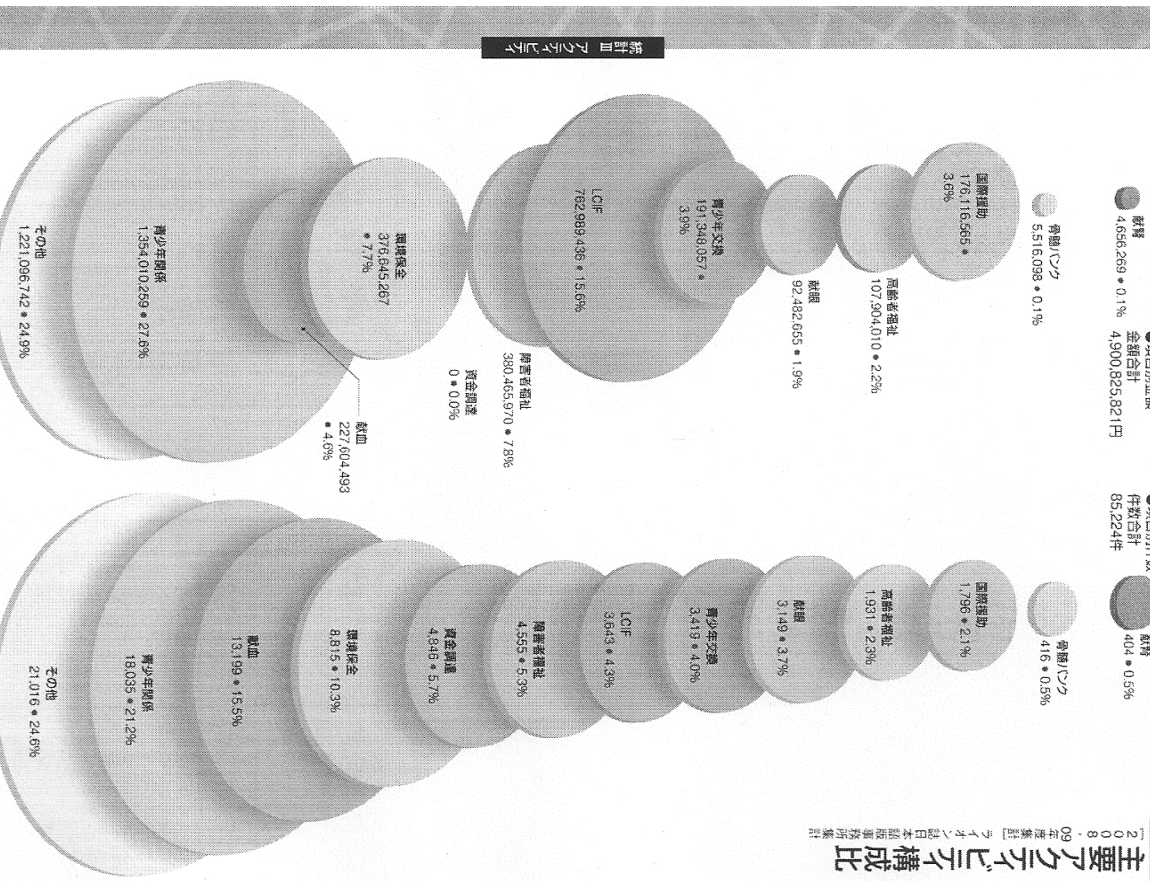
2009年度 日本証券業協会



11 LION 2010年12月号

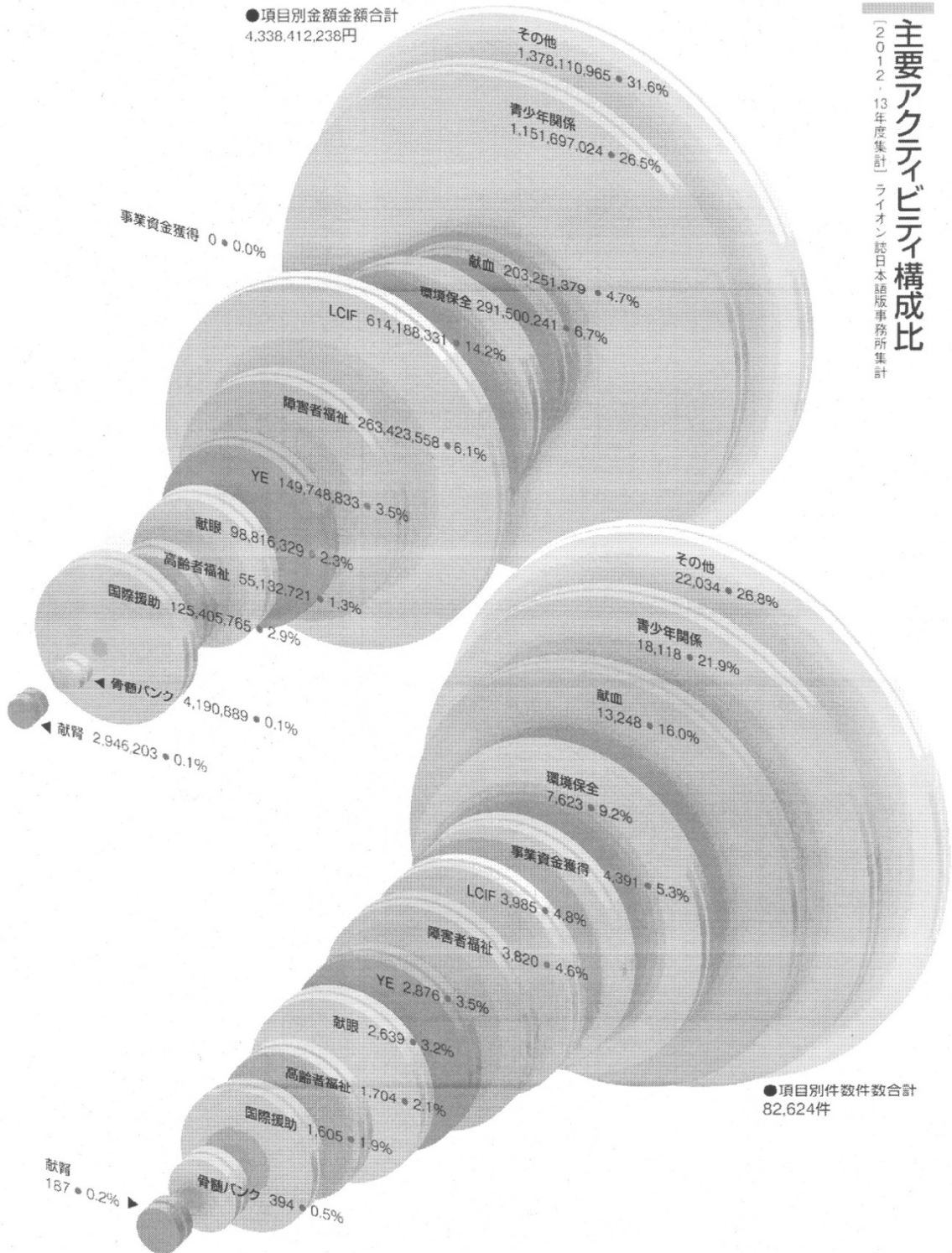
主要アライメント構成比

2008年度 日本証券業協会



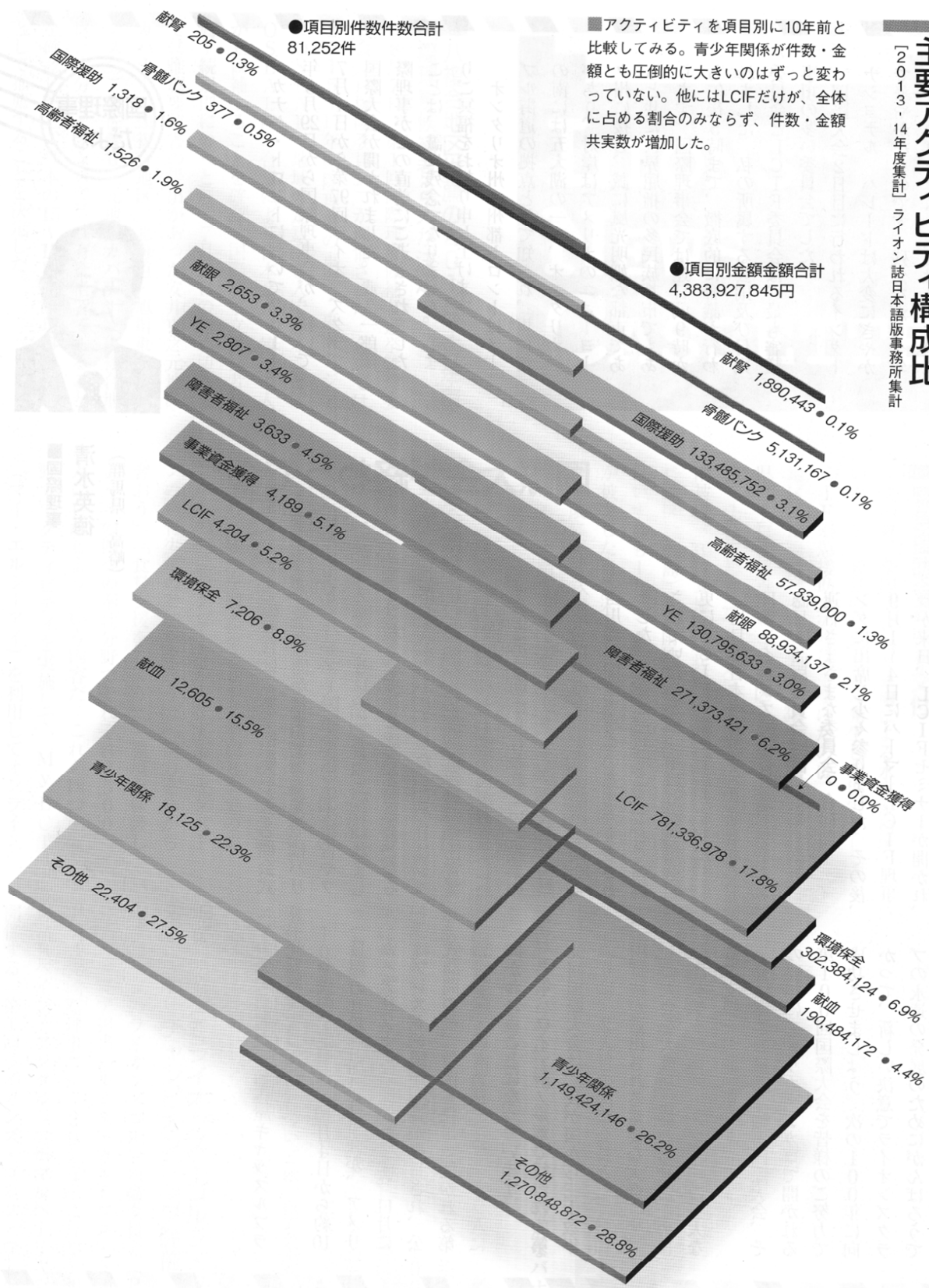
11 The Lion 2009.12月号

主要アクティビティ構成比
〔2012・13年度集計〕ライオン誌日本語版事務所集計



統計Ⅲ アクティビティ

ライオンズクラブ統計



主要アクティビティ構成比
「2013・14年度集計」ライオン誌日本語版事務所集計



新木英樹
副会長

統計Ⅲ アンケート

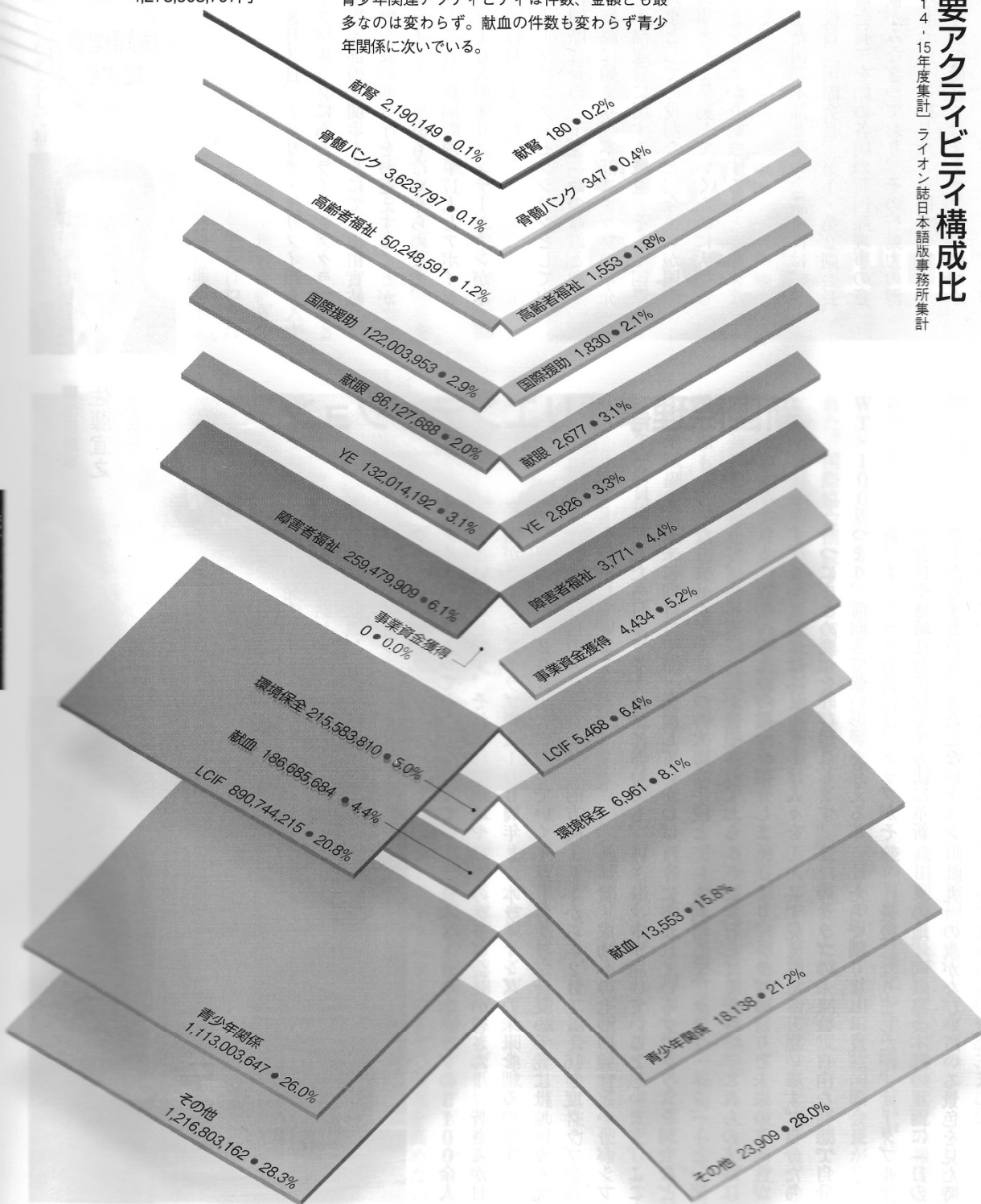
ライオンズクラブ統計

●項目別金額金額合計
4,278,508,797円

■10年前のアクティビティの総額からは1億6千万円減少する中、献眼とLCIFの金額は増加した。青少年関連アクティビティは件数、金額とも最多なのは変わらず。献血の件数も変わらず青少年関係に次いでいる。

●項目別件数件数合計
85,647件

「2014・15年度集計」ライオン誌日本語版事務所集計
主要アクティビティ構成比



献血アクティビティの2008年度～2014年度推移表 7月～翌年6月＝年度

	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
献血アクティビティ件数	13,199	12,214	13,328	12,984	13,248	12,605	13,553
年度内構成比	15.5%	14.6%	14.9%	15.5%	16.0%	15.5%	15.8%
献血使用事業資金	227,604,493	225,975,813	226,131,446	196,708,337	203,251,370	190,484,172	186,685,684
総事業費内構成比	4.6%	5.0%	3.9%	4.2%	4.7%	4.4%	4.4%
献血数量件数×90%×25人×0.4(400cc)＝ (類推)	118,791 0	109,926 0	119,952 0	116,856 0	119,232 0	113,444 0	121,977 0
クラブ数	3,337	3,288	3,257	3,225	3,194	3,151	3,126
メンバー数	108,779人	105,582人	103,591人	101,781人	100,768人	113,604人	121,122

上記データはライオン誌日本語版より転載した公式データです。

但し、献血数量は、類推となっております。(下記の通りシビアな判断をしております。)
 献血アクティビティ件数の内10%を献血を伴わない推進キャンペーンとしておりますが、献血を伴わないアクティビティは実質5%以下で、95%以上が献血を行うアクティビティと推測できます。
 1回の採血人数を25人とみなしておりますが非常に少ないみなし数です。(自クラブでは概ね40人前後です。)

事業資金に関して：売血と見なされる事を日本赤十字社が避ける指導を厳しくされている為に、ライオンズクラブとしても、献血者に対しての対価支払いに成らない様に、菓子等提供等に抑えておりますので、件数構成比に比べ事業費構成比が少なくなっております。

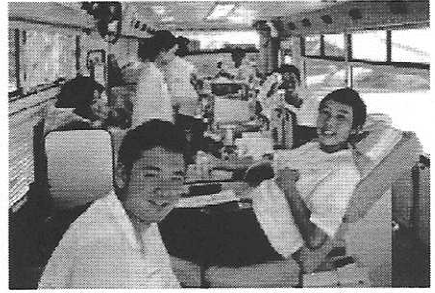
THEME

大人の社会科見学 献血編

今日も全国のどこかで、ライオンズが
献血への協力を呼び掛けている。命をつなぐ
ために輸血や血液製剤が欠かせない人を
助ける献血。提供された血液はどのように
必要な人の元へ届けられているのか。

日本赤十字社の血液事業の
現場を見学
する。

福岡県・大牟田中央ライオンズ倶楽部
大牟田高等学校献血会



日本ライオンズが献血運動を始めて46年。337・A地区は積極的にこれを推進してきた。福岡県内では献血バスと献血ルームで行われ、ライオンズの献血はすべて前者。昨年、一昨年とも、県内の献血バスでの採血全体の4分の1を占めた。

少子高齢化社会により今後は血液製剤を必要とする人が増加する一方、献血可能な年齢層の減少が想定され、より一層の注力が求められている。

今年度は採血基準の改正が施工され、男性は17歳から400ミリットル献血が可能となった。当クラブはこの機会

を捉え、若年層、特に高校生に対する献血の啓発・普及運動を展開していくことにした。

大牟田高等学校は在校生1200有余人を擁し、駅伝、柔道、野球、吹奏楽など各分野で優秀な成績を収めている。同校に申し入れたところ、学校当局もその趣旨を理解し積極的に協力してくださることになった。

第1回献血会を9月6日に実施。爽やかな初秋の日差しの中、9時30分の開始から15分間隔、5人単位で献血バスに入り、予定時間通りの午後3時に終了した。受け付け93人、採血者83人。

中でも部活動で活躍している生徒さんが率先して参加してくれうれしく思った。行き届いた学校側の配慮にも会員一同感謝を申し上げた次第である。

第2回は「卒業記念献血会」と銘打って今年2月に予定しており、多数の参加を期待している。

学校当局に次年度に向けて1、2年生を対象とした献血研修会の設定をお願いしたところ、3月に行うことになった。福岡県赤十字血液センターと連絡を取りながら、受講者の啓発と献血の普及に努めていくつもりだ。

(幹事/萬矢勝保)

大阪府・八尾中央ライオンズ倶楽部
河内音頭まつり大パレードに参加



八尾中央ライオンズ倶楽部(吉本稔会長/53人)が「八尾河内音頭まつりパレード」に参加するようになって10年。今年は今クラブの河内音頭同好会とライオン・レディーに加え、八尾うぐいす、南大阪みささぎ両クラブの友情出演をバックに総勢60人で挑んだ。

8月28日、先頭にクラブ旗、そしてメイン事業である乗物乱用防止のタスキと横断幕をひつさげ、マスコット・キャラクターのライオンマン、「ダメゼッタイ」子ちゃんも加えてエントリー。5時20分、いよいよ我がクラブの出番だ。気合いを込めて全員で「ウ

オー」と一声、元気よくパレードに繰り出した。今年は東日本被災地復興チャリティー・イベントも兼ねており、参加者3千人、J・C・O Mの生中継もある。躍動感あふれる河内音頭の調べに、自然と八尾の夏が盛り上がる。

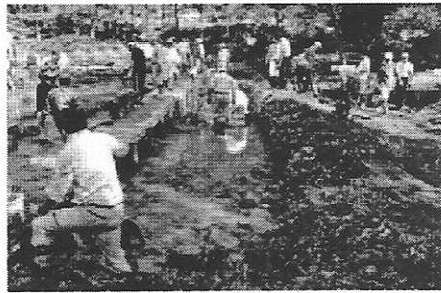
約40分の道中に、沿道の観客、知り合いの皆さんから温かい応援の声や拍手を頂き、踊りも一糸乱れず無事ゴールした。マスコットもたっくんの子どもたちから握手をねだられ、テレビ・クルーにも撮られ大人気だった。実を言うと連日30度を超す猛暑でメンバー誰もが着ぐるみを着るのを尻込

みする中、何と若手メンバーのご子息(中学2年生)が「僕、ライオンズのためやったら『ダメゼッタイ』子ちゃんをかぶります!」。ライオンマンは事務局員が引き受けてくれ、大いに感謝!! 今回のパレードも大成功を収めることが出来た。

「よかつたなあ!」「来年もやりまっせえ!」。この元気と笑顔が被災地の皆さんに届けばエエなあと思いつつ、「ワイ・サーブ」でビールの乾杯。良い汗をかき、良い気持ちで、良い奉仕が出来たと全員満面の笑みだった。

(設営・PR委員長/野勢昌彦)

ホクリクサンショウウオのビオトープを守れ



第2号の7クラブ(富山セントラル、八尾婦中、富山神通、大山、富山西、富山昭和、富山いきいき)は、新年度当初に開催される恒例のゾーン会長・幹事会で、今年のライオンズ・デーはゾーン合同で奉仕活動に取り組むことを決議した。

富山西ライオンズの田畑裕二会長から「ホクリクサンショウウオ(絶滅危惧種)の生息地が危ない」という情報を提供頂いたことがきっかけとなり、戸田治ゾーン・チエアバーソンの取りまとめの下、日本で唯一、里山を有する動物園・富山市ファミリーパーク内

にあるトンボの沢で、大雨などで堆積した泥の泥上げを行うことになった。当日の10月8日は暑くも寒くもない肉休労働に絶好の天気。7クラブからの選抜メンバー77人がスコップとバケツを手に、疲れも忘れ心地よい汗をかいた。

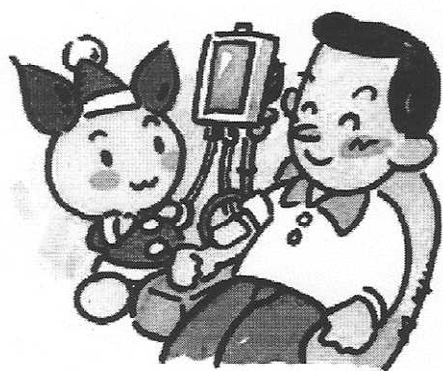
参加メンバーの感想を紹介しよう。「久しぶりの動物園でルンルン気分で作業を始めた私たちに、後悔はじきやつてきました。が、いつ果てるとも知れぬ作業の中、ドロドロになりながらも、次第に爽快感と童心に返るような懐かしさを感じ始めたのです。そし

て体感とは、思考を超えて事実を実感することだと気付きました。奉仕も「百聞は一験(経験)に如す」、体感以外では生まれないことに改めて気付いたことが、何よりも大きな収穫でした。来年はぜひ、この感動を他の人にも味わってもらいたいと思います」

今回のアクティビティは皆の努力があつて、成し遂げることが出来た。キヤビネットの環境事業方針「地域にビオトープを作ろう」にも合致し、市民の憩いの場の環境整備も出来るすばらしい事業となった。
(地区委員/長江正憲)

12月3日、4日の両日、第1号第1号と第2号第1号及び第2号の秋田市周辺の16クラブは合同で、JR秋田駅前のアゴラ広場で「クリスマス献血キャンペーン」を実施した。血液が不足する冬場に献血を呼び掛けようというこの企画は1984年から続いており、今回は2日間で99人の市民らが献血してくれた。

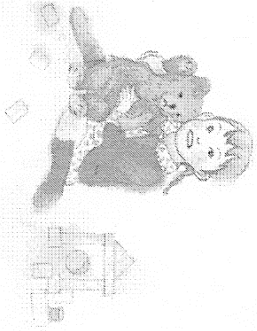
県赤十字血液センターによると、県内は少子高齢化の影響などで獲得出来る献血量が減少しているのに加え、12月3月は風邪で体調を崩したり、雪でバスが運行出来なかつたりするため更



に献血者が減るのだそうだ。1週間当たり約50人分の血液が不足しているという。

我々は献血の看板を掲げて道行く人たちに協力を呼び掛けながらティッシュ、ユベーパーを配り、また採血を終えた方たちには、お礼のお菓子をプレゼントした。

県赤十字血液センターの担当者からは「ライオンズの協力がなければ成り立たない」と感謝されている。血液を必要としている患者さんはクリスマスも病氣と闘い、血液を待っていると聞き、この活動の必要性を強く感じる。これからもより多くの人が献血に協力してくれるよう呼び掛けていきたい。
(秋田中央ライオンズ会長/浜野正)



毛、まっげまでもが抜けた。副作用で白血球や血小板が破壊され、鼻や歯茎からも出血し、食事ものどを通らなくなった。治療には新鮮な血液を輸血するしかない。調べたら、幸美ちゃんの血液型は何百人に一人という「R1Dマイナス」だった。

保健所に協力をお願い、父は、見知らぬ人にお願いに伺った。快く承諾してくれ、他人の血液を病院まで運んで調べた。引き合わせるところがあるのだろうか。幸美ちゃんの血液と適合する同じ型だった。その同じ型の血液の人も宿命を感じたのだろう。迎えるの車に乗って、遠い奈良泉の病院までかけてくれた。

輸血した血液は○○○のなかに青白かった幸美ちゃんの頬や唇に、紅がさした。ぼつり、幸美ちゃんかつぶやいた。「お腹が空いた。何か食べたい」

血液は命だった。父は胸が震えた。涙があふれ止まらなかった。名の通り我が子が美しく見えた。その日から幾度か、幸美ちゃんは愛の輸血をもらいながら立ち直り、立ち直りながらも次第に衰弱していった。三歳三月月の日、幸美ちゃんは短い命を終えた。

父は和歌山の南部市南町に明治末から続く「肥料商」だった。付き合っている人々が後から後から会

「血液について私には悲しい思い出がございませう。今から三十年前……」

今年七十二歳になる岡本崇さんは、穏やかに話し始めた。岡本さんが、三十九歳の年のことであった。可愛い女の赤ちゃんに生まれた。働き盛りだった父は、幸せに美しくあれと願い、「幸美」と名づけた。赤ちゃんは両親の愛をいっぱいに受け、すくすくと育った。

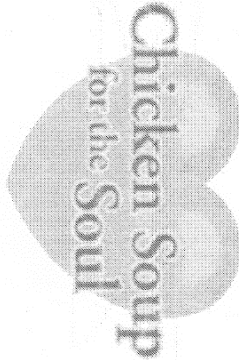
幸美ちゃんが二歳になった時のことだった。ぼつぽつおいたをするようになり、元気に育っていた。ある朝、おむつがビクビクに染まっていた。血尿だったらしいが、翌日はもう何ともなく、愛らしく笑っていたので、両親はつい気を許した。あの朝、お腹が膨れていることに気づいた。触ると

深く愛する者は、忘れるのも悪い。

櫻野 兼山 師

この手キースト♪ライオンズ編

血液は命だった



みると、何か同じしりに触れた。医師に診せるみると、何か同じしりに触れた。医師に診せる

「腎臓ウイルス腫瘍です。小児がんの一つです。青灰の腫瘍という言葉がある。衝撃であった。この子が、どんな悪いことをしたというのか。家族の愛情をいっぱいにかけているこの子が、なぜがんなのだ。父も母もそう思った。家族の不安を打ち消すように医師が言った。

「腫瘍を摘出すれば、元気になるですよ」

医師の言葉を信じた。幸美ちゃんは、左腎臓摘出の手術を受けて退院した。元気だった。医師の言葉通りだった。だが、それはつかの間の日差しでしかなかった。病態は転移していた。腹部リンパ腺に再発して再び入院し、抗がん剤を使った治療と抗がん剤投与で、幸美ちゃんは髪の毛や眉がえった顔の幸美ちゃんの声忘れられなかった。その日の感謝の思いを、全難者の志も加えて、血液センターに贈った。父の志は献血を運ぶ車となり、「幸美君」と名づけられた。真の白なボディに、赤十字のマークを付けたライオンだった。

「幸美君」は、剛られたその日から献血を運んで活躍しだした。父と母は、その日から自ら献血に協力していった。四年後、御坊ライオンズに入会した父の献血は二十六年間続き、献血本数は百四十八本に及んだ。献血運搬車の簿冊も綴じられた。「幸美君」は四号車にまでなつて、近くの田辺血液センターに配属された。父も母もその日、い姿に街で出会うことがある。父には、赤色灯を回して走り去るその姿が、幸美ちゃんが勵ましてくれているようにも見える。

「お父ちゃん、お父ちゃん、まだまだだよ、頑張つてねえ」

「幸美、お前も、頑張れよ。気をつけてな」

心で響える父のまぶたに浮かぶ幸美ちゃんは、如くふつくと元氣だった。あのころそのままの姿で笑っていた。

舞に訪れた。だけれど、子に先立たれた父母の悲しみの深さを知る人々であった。

思い出に浮かぶのは、元氣だった日の我が子の笑顔をだった。父には、あの輸血の日、赤々とよみがえった顔の幸美ちゃんの声忘れられなかった。

その日の感謝の思いを、全難者の志も加えて、血液センターに贈った。父の志は献血を運ぶ車となり、「幸美君」と名づけられた。真の白なボディに、赤十字のマークを付けたライオンだった。

「幸美君」は、剛られたその日から献血を運んで活躍しだした。父と母は、その日から自ら献血に協力していった。四年後、御坊ライオンズに入会した父の献血は二十六年間続き、献血本数は百四十八本に及んだ。献血運搬車の簿冊も綴じられた。「幸美君」は四号車にまでなつて、近くの田辺血液センターに配属された。父も母もその日、い姿に街で出会うことがある。父には、赤色灯を回して走り去るその姿が、幸美ちゃんが勵ましてくれているようにも見える。

「お父ちゃん、お父ちゃん、まだまだだよ、頑張つてねえ」

「幸美、お前も、頑張れよ。気をつけてな」

心で響える父のまぶたに浮かぶ幸美ちゃんは、如くふつくと元氣だった。あのころそのままの姿で笑っていた。



う。ベルトから金色の鎖を下げてスボンのホケッ
トまでつけた派手なスーツの二十歳前後の若
い男性、アクセントの強い厚化粧で髪を栗毛色に
染めた女性、あるいはまた普救堂でツツカを
履いた近所の人、仕立ての良い背広で、さざか
し昔は一流企業のお偉方だ
つたかしらという方、好み
の良い装いで何の苦勞も
ないだろうと思われご婦
人、数え上げればきりがご
ざいませんが、こちらの呼
び掛けにたえなくてさる
かどうかは、服装とは関係
ないようでございます。
ある時、去年のことでし
たが、予備校生らしい若い
方々が五、六人、にぎやか
にエスカレーターから降り
て、私たちの方に近づいて
いらっしゃいました。

「あいづ、超ムカツクさんだよ」とか、「まじか
よ、めでめ」と何だか分からないことをしゃべ
っていて、服装は派手、頭は茶髪だしで、正直ち
よつとわいなな思いました。それでも、思い切
つて声を掛けてみたのです。

どなたでもそうかもかもしれませんが、ぱりつとし
た仕立ての良い洋服をお召しになった紳士を拜見
しますと、さぞかしご人柄も高潔な方だろうと、
つい思ってしまう。たしかにそういう方もい
らっしゃいますが、見かけ柄と申しますか、見
かけによらぬと申しませうか、がっかりさせら
れる方も中にはおられます。人というのとは分か
ぬものだな、と思ふ今日このごろでございます。

私たち、千葉県の船橋シニア・ライオンズは
毎月第四木曜日に、JRの船橋駅前には十八ぐら

人住屋では品物を人急に吟味するが、人間のこ
とになると、外見で判断する。

——アリスライオンズ——

こころのチキンスープ ●ライオンズ編

鶏肉／香辛

ツツカ切り

茶髪さん献血奉仕に

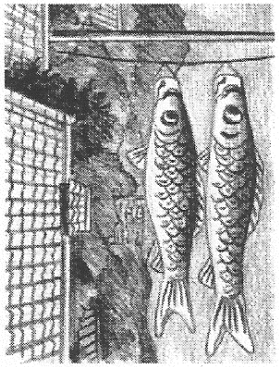
Chicken Soup
for the Soul

「献血、お願いします」
そうしましたら案の定、「うんせえなあ」とい
う感じでじろりところを見まして、「これはだ
めたわ」と思った瞬間でした。一人の手がそっぽ
を向いているはかの子に言ったのです。
「おメガ馬鹿かよ。おはさんがごんだけ熱心に
話してるのに、話、聞けねエのかよ」
全員が立ち止まって、こちらを向きました。
「今日という日の思い出に皆で献血しよう。
長い人生で、今日という日はたった一日ですよ。
いつか社会に出て再び出会った時、あの日、六人
そろって献血したついで、良い思い出になりま
すよ」
すると、その若者たち、こたえてくれたんです。
「おう、やるせ、皆で」
献血に応じしてくれる方は、意外に茶髪さんとか、
服装が乱れてるなアという若者が多いです。
「おはさん、年寄りなのに偉いね」
「一生懸命呼び掛けるけど、どうして？」
と、話しかけてくれる方もいます。私たちの呼
び掛けに目を合わせてくれて、その目がとても
優しいのです。人は、服装や風体で判断とはい
けないですね。

私たち、平均年齢七十三歳。今年も船橋の駅前
に立ち、皆さんに献血を呼び掛けております。

そんな大きな駅ですから、私たちの前をすいぶ
んといろいろな方がお通じになります。
私たちがアイクで呼び掛けている時間は、午後
二時から四時まででございます。通りかか人も、
予備校生や、専門学校生、高校生、お勤めのお嬢
さん、時間を持って参っていらっしゃる様子のご婦
人、リタイアしたらしい年配の紳士、せしそうな
サラリーマンの方など、まあとにかくいろいろで
ございます。

もちろん服装もいろいろで、まるで展示会の上
で立ち献血の呼び掛けをしております。私たちの
クラブは八年前、第一線を退いたメンバーを中心
に結成いたしました。クラブには初代会長をされ
た方が九十五歳で健在でいらっしゃいます。初
代会長ばかりでなく、皆さんとても元気です。
船橋なんてどの田舎かと思ひかもしれませ
んが、船橋駅は千葉県でも一、二を争う大きな駅
なのです。いいえ、別に駅の目撃をしているわけ
ではありませんが、駅の周りは東武マート、
西武マート、そのほか高層ビルが立つっておりま
して、陸橋が駅前広場をまたいで広がり、バス
ターミナルからは四方へバスが発着しております。
この駅の乗降客が一日に二十七万人というこ
です。毎回、そんなところで、献血を呼び掛けてい
るのでございます。



この年、アメリカのライオン・駐日大使が、無医に僕を執刀し、一命は取り留めたものの、手術の跡の腫血もどで、肝臓を危しめてしま...
この昭和39年6月8日、私の血...

「僕の中には、ドナドナと毒舞々運動性のある二匹居るはな...
なにか、医者の見解が断言をばさ...
うこのなか、そまでは理解せぬま...

成功した場合、何も必要もない。遺尿が何を導きかねる。なぜか、移植医療...
「ライオン」運動はほどほど死...
語近く、達士なっているような儲け...

たを方々の例念々「六」首行に懸...
「ライオン」が「ライオン」を...
「ライオン」が「ライオン」を...
「ライオン」が「ライオン」を...

北村ニライオンズでは三匹...
「ライオン」が「ライオン」を...
「ライオン」が「ライオン」を...
「ライオン」が「ライオン」を...

「ライオン」が「ライオン」を...
「ライオン」が「ライオン」を...
「ライオン」が「ライオン」を...
「ライオン」が「ライオン」を...

本木正樹 (福岡・北九州)ニライオンズ

敬意と純粋の気持ちは伝えたが、移植医療を推進する機会が原主常になり表すべきことではないだろうか。今この際、一顧おぞ」と言った本人と、自分の命が途切れ

た時には「頼む」と依頼を受けた遺族に、おぞ」と言った本人と、自分の命が途切れ

た時には「頼む」と依頼を受けた遺族に、おぞ」と言った本人と、自分の命が途切れ

た時には「頼む」と依頼を受けた遺族に、おぞ」と言った本人と、自分の命が途切れ



333-C地区

千葉ゆうきのライオンズが 貧血にならない身体を作る 驚きの食材を使った料理教室



1月20日、千葉みなと駅に近いホテルポートプラザちばの2階で、千葉ゆうきのライオンズ(岩本朝子会長/23人)が日本赤十字社千葉県支部、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センターと主催した「献血女子会SWEEETSクッキング!!」チヨコッと早いバレンタイン+健康スイーツで献血にGO!」が行われた。この事業は千葉ロッテマリーンズに協力してもらっており、当日はトークショーを兼ねた試食会に内蔵也投手がゲストで参加することになった。

球団ホームページなどでもPR

1月20日、千葉みなと駅に近いホテルポートプラザちばの2階で、千葉ゆうきのライオンズ(岩本朝子会長/23人)が日本赤十字社千葉県支部、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センターと主催した「献血女子会SWEEETSクッキング!!」チヨコッと早いバレンタイン+健康スイーツで献血にGO!」が行われた。この事業は千葉ロッテマリーンズに協力してもらっており、当日はトークショーを兼ねた試食会に内蔵也投手がゲストで参加することになった。

この献血女子会、実はこの日に献血をするわけではない。献血出来る健康な身体を作るためのお菓子作り教室だ。

千葉ゆうきのライオンズは結成当初から献血協力をしてきた。だが、ある問題に心を痛めていた。それは、献血したいと申し出てくれた人から採血出来ないケースが多いことだ。千葉県赤十字血液センターによると、千葉県内で献血に参加してくれ

女子会 SWEETS
早いバレンタイン・健康メニュー



(上) 千葉ロッテマリーンズの内竜也投手は、参加者との記念撮影などで交流
(下) 参加者が記念撮影をしている間はライオンのメンバーが料理の番



る人は2012年度で約30万4千人。が、5万1千人が献血出来ないと。一番の原因は、低ヘモグロビン量。一般に貧血と呼ばれる症状だ。献血が出来ない原因の約半数を占めており、特に若い女性に多く見られる。そんな中、持ち上がったのがこの献血女子会。チャリティー・ディナーショーの獲得資金で実施された。

当日、参加者はグループごとに作業をする。この日のメニューはチョコレートケーキとクレープ。一見、普通の料理教室のように感じられるが、テーブルの上には卵やチョコレートに混じってひじきやゴボウが置いてある。これらを使うことで体内に鉄分を取り入れられ、貧血に強い身体が作れるという。

実演はホテルポルトプラザちばのパティシエ高橋健治さん。説明を交えながら手際よく作っていく姿を、参加者は時折メモを取りながら真剣に見ていた。

そしていよいよ、自分たちで調理をスター

ト。参加者たちはレシピを基に協力して作り上げていく。次第にこの日初めて会った人同士にもコミュニケーションが生まれていった。途中、内竜也投手がサプライスで登場するなど、終始参加者の笑顔が絶えない料理教室となった。

千葉ゆうきのライオンズでは今後もこの事業を継続していくつもりだ。人々のライフスタイルが変わってきている中、ライオンズクラブならではの健康的な身体作りの手伝いをしたいと考えている。

取材／井原一樹 撮影／関根則夫



334-D地区

富山東ライオンズクラブ

献血イメージアップ オリジナル献血推進曲の制作



富山東ライオンズクラブ(37人)は1月13日、買い物客でにぎわうショッピングセンター「フアポール」内で献血イメージアップ及び推進活動を実施した。事業の目的は若年層の献血離れによる慢性的な血液不足解消をアピールすると共に、当クラブの活動を広く知ってもらうこと。

今年度、当クラブはオリジナル献血推進ミュージックCDを製作した。これは県内のミュージシャンが集結し、リレー方式で歌い上げたもの。

当日はこのCDを献血のPR

に活用してもらえよう、富山県赤十字血液センターへ500枚贈呈した。また、参加ミュージシャンへの感謝状贈呈や、ライブコンサート、そして来場者先着100人へのCDプレゼントなどを行い、同時にライオンズクラブ活動への理解を呼び掛けるチラシを全員で配布した。

これらの活動によって献血に対するイメージが明るなものになったのではないだろうか。

CDは全国の血液センターに贈られることになった。今後、全国の献血活動でこのイメージ

ソングを大いに活用して頂くことで、献血に協力してくれる方が増えればうれしい。

また、今回のイベントによって富山東ライオンズクラブの活動のみならず、ライオンズクラブに對して、今まで以上に市民の方に理解を深めて頂けたなら幸せだ。

後日、県内ラジオ放送局から「今お薦めの歌」としてこの歌を流したい、という連絡があった。この歌が末永く愛されていくことを心から願っている。

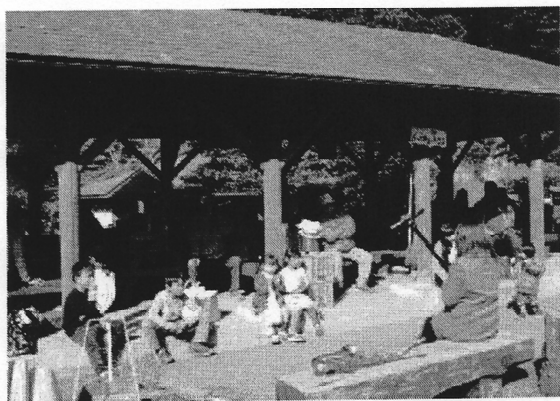
(会長) 柳瀬敏

2013年11月23日、都城ライオンズクラブ(持永忠志会長/34人)は紅葉例会を実施した。これは家族親睦例会として計画。家族会員を含めて三世代でウォーキングをし、親睦を深めた。ライオンズクラブの活動には家族の理解と協力が欠かせない。そこで年に2回家族親睦例会を計画し、内容も工夫を凝らした。うっすらと霜が降りる冷たい朝だったが、1歳から73歳までの三世代が参加。小川のせせらぎを聞き、コケむした石と紅葉を見ると、日頃の疲れが癒やさ

337-B地区

宮崎県・都城ライオンズクラブ

三世代紅葉ウォーキング例会 内容充実で会員増強を目指す



れるようだった。それぞれの体力にに応じて1〜2時間を歩き、昼はバーベキューを行った。費用はほとんどが会員ドネーションによるものだ。

遊具がたくさんある広場では汗びっしょりで飛び回る子どもたち。それを見守る会員は父親や祖父の顔だった。最後には会員の知人が三味線を演奏してくださるなど、アットホームな雰囲気で大変盛り上った。

講師を呼んで会員増強の勉強会をするのも一つの方法だが、息が詰まるような例会になって

しまつては逆に出席が減り、退会へつながつてしまう。都合で来られなかった方が残念がるような例会になれば成功だと考え、この親睦例会では「ぜひ次は自分も参加しよう」と思えるようなものを心掛けていく。

12月には都城市交通少年団と飲酒運転根絶運動、ガールスカウトと歳末助け合い活動を実施した。当クラブでは家族を連れて気軽にボランティア活動に参加出来るようなライオンズクラブを目指している。

(計画委員長) 江藤博明

334-A地区

愛知県・津島ライオンズ倶楽部

「特別じゃない 私はふつう」
佐野有美さん大いに語り歌う!



2012年12月9日、津島ライオンズ倶楽部(69人)は青少年健全育成事業の一環で「佐野有美さん講演とミニライブ」を主催した。1100人のお客さんが詰めかけ、津島市文化会館大ホール前には長蛇の列が出来た。愛知県出身の佐野有美さんは先天性四肢欠損症で、あるのは短い左足と3本の指のみ。しかし彼女は豊川高校でチアリーディング部に所属し「車椅子のチアリーダー」として注目されたのを始め、あらゆる分野で活躍した。そんな彼女を取り上げた

テレビ番組を見ていた石井利一会長と私は、逆境に負けず果敢に生きる有美さんと、献身的なご両親の姿、そして多くの友達との友情にいたく感動した。そしてこの感動を多くの人々と分かち合いたいと講演をお願いした。オープニングは友情出演の清林館高校チアリーディングチームが華麗な演技を披露。その後、特別な電動椅子で登場した明るく可愛らしい笑顔の有美さんには、会場から割れんばかりの拍手が送られた。生と死と闘った22年間を、有美さんは明るい笑

顔で語られ、会場からは笑い、時折すすり泣く声も聞こえた。次は日本レコード大賞企画賞に輝いた有美さんのミニライブ。その澄みきった歌声が会場に響き渡った。清林館高校チアリーダーの有美さんを囲んでのエンディングに観客は総立ちだった。「ありがとう、良かったよ」「勇気をもらいました」と、会場を後にする人々の声に、今期最大の充実感が、見送りに立つ石井会長の日は心なしか潤んでいた。

(幹事/長尾昌和)

宇都宮ライオンズ倶楽部(菅谷文利会長/27人)は今年度、52年目の活動に入った。そこで昨年末の活動を歴史を交えて原稿にすることとした。

2012年10月6日には栃木県立衛生福祉大学において「献血支援」を実施した。当クラブの献血支援活動は1981年に行った市内ライオンズクラブ合同献血会に始まる。その後、献血事業をスタートさせ、30年が経過した。86年には市内のオリオン通りに常設の献血ルームが開設され、当クラブはその前

献血推進事業を行った。これはこの献血ルームが2004年、宇都宮大通りに「うつのみや大通り献血ルーム」として移設されてからも、継続している。また、02年からは栃木県農業大学

校、栃木県立衛生福祉大学校においても献血推進事業を開始した。このように、献血奉仕事業はクラブ内で継続アクティビティとして定着している。10月7日には宇都宮市二荒山神社前で「赤い羽根街頭募金」を実施した。12月9日に実施した歳末助け合い街頭募金と共に、



333-B地区

栃木県・宇都宮ライオンズ倶楽部

我がクラブの奉仕活動

48年間継続している。県内のライオンズクラブでは当クラブが唯一実施しているもので、栃木県知事から表彰状も頂いた。10月27日には「第10回うつのみやふれあいスポーツ大会」を後援した。この大会は障害者の方を中心としたスポーツ大会で、今年は956人が参加した。当クラブでは参加者全員にお弁当とお茶を配布提供している。前身の知的障害者スポーツ大会から数えて今回で22回目の継続奉仕である。

(PR情報委員長 坂本竹男)

3月10日、上総ライオンズクラブ（月崎和雄会長、45人）の環境保全委員長である石橋英男を始めとした4人は千葉県旭市ライオンズクラブを訪問し、加瀬朝堂会長ら3人に出迎えてもらった。旭市は東日本大震災の津波で大きな被害を受けた地域であるため、当クラブからは黒松の苗木50本と支援金5万円を寄贈した。石橋は「明日の3月10日、あの震災から満2年が経ちます。旭市は津波による被害で海岸の黒松の多くが枯死しました。今日は黒松の苗木を持参しまし

333-C地区

千葉県・上総ライオンズクラブ

東日本大震災被害の旭市に 黒松の苗木50本と支援金寄贈



たので、適した場所に植えてください」とあいさつ。加瀬会長からは「遠方からありがとうございます。頂いた黒松は近く、植樹計画の中で植えさせて頂きます。支援金も頂き、感謝しております」とお礼の言葉がありました。この後、昼食をとりながら双方のクラブの運営などについて話し合い、親睦を深めた。

乗用車から見た海岸では、沿線の黒松が津波の影響でかなり枯死しているのが確認出来た。改めて当時の恐ろしさが感じられ、寄贈した苗木が早く活着して大きく育ち、元の防風林のようになることを願った。寄贈した苗木は3年前の3月、私が松ぼっくりから種子を取り出してまき、育成したものの。元々は植樹をし、地球温暖化防止に役立てようと生育させていたものだったが、震災の復興に使って頂こうと考え、寄贈することにした。

当クラブは東日本大震災の被災地へ数回にわたり支援金を贈っており、一日も早い復興を願っている。（PR情報会報編集委員長 斎藤敏夫）

尼崎レオクラブ（23人）は2012年の11月から、毎月第3土曜日に献血推進活動を行っている。3月16日にも今期5回目となる献血推進活動を行い、7人が参加した。この日は「けんけつちゃん」の着ぐるみも着用し、「道行く人に献血を呼び掛けた。また、今までティッシュや風船を配っていたが、新しい試みとしてスーパーボールも配ることにした。着ぐるみの着用や風船、スーパーボール配りは子どもの興味を引き、その親御さんに献血を呼び掛けるため行っている。

また、今回は看板も作った。「けんけつちゃん」のイラストに「献血にご協力お願いしますっち」と「けんけつちゃん口調」のメッセージを添えるなど親しみやすいものを作るよう心掛けた。この看板によって多くの人に、より直接的に私たちの訴えを伝えることが出来た。また、パソコンで作成した看板ではなく、手描きのものを使用したことにより、注目されやすく、心の込められた仕上がりになっていると、献血ルームの方にも褒めて頂いた。私たち自身にとって



335-A地区

兵庫県・尼崎レオクラブ

手書き看板で献血推進活動

も、用意されたものを使うのではなく、自ら作成することで、より献血への意識が高まったと感じている。第4回目の献血推進活動では、親御さんが献血をされている間子どもを預かるキッズルームで折り紙を教える折り紙教室を実施し、好評だった。しかし、第5回では実施出来なかったため、今後はまた導入していきたいと考えている。このようにこれからも、私たちに出来る献血推進活動を積極的に行っていくつもりだ。（会長 堤希帆）

335-D地区

兵庫県・加古川東ライオンズクラブ

今期2回目 献血奉仕事業の実施



暖かな土曜日となった3月29日。加古川東ライオンズクラブ(吉島誠一郎会長/19人)の今期2

回目の献血奉仕事業が、イオン加古川店で行われた。400リットル献血のみの実施だった。

準備を済ませたところ、早くも受付に人が並び始めたため、早々に例会を終え、受付を開始

集合した。

昨年11月に実施した際は、寒い時期にもかかわらず目標の2万リットルをクリアした。少し暖かくなった今回は、前回以上の献血量を確保したいとの思いでメンバーは集まった。午後4時に受付を終了。最終的な受付人数は79人、採血者数61人。確保量は、2万4400リットルとなった。

この事業を通して感じることは、若い人の献血が少ないこと。今回のように実施が400リットル献血のみとなると、体重の条件があることも要因の一つと考えることも出来るだろう。しかし、少しでも献血に関心をもち意識する若い人が増えれば、更に多くの方の命が助かると思う。献血奉仕事業の実施だけではなく、献血に協力する気持ちを広めることもライオンズクラブとしての大切な役目の一つと感じた1日だった。

(幹事)北野紗恵子

富山ライオンズクラブ(松本臣市会長/75人)は、2006年度

に334-D地区第1部第1回の合同アクティビティでスタートしたカンボジアの子どもたちにランドセルを送る事業を続けている。現在は当クラブ単独で実施しており、8年間継続している。今年5月に集積検品後に輸送した1980個を含め、これまでにカンボジアに送ったランドセルは1万1千個を超えた。パートナークラブのフノンペン・オートバイライオンズクラブの協力、フノンペン郊外の小学校

334-D地区

富山ライオンズクラブ

合同事業から単独事業へ カンボジアにランドセル寄贈



ヤアンコールワット近くの小学校を10校以上に寄贈している。初めは、富山市内にある60の小学校それぞれを訪問し、説明をし、集積していた。だが、現在は、小学校から問い合わせがくるほど認知され、地元メディアにも大きく取り上げられる事業になった。

この事業は、祖父母や親からプレゼントされ、大切に使用したランドセルを何かに役立てられないかと考えたことから始まった。小学校を卒業する子どもたちの思いと一緒に、学用品がほとんど支給されない国の子どもたちに届けている。カンボジアでは小学生一人当たりの政府からの支援はわずか年1・5ドル。学校建設や学用品の支給など日本を始めとした他国からの支援が無ければ教育環境が整わない状況である。今後この事業を継続し、物の支援だけではなく、日本の小学生とカンボジアの小学生との「心の交流」の一環を担うことが出来れば、と考えている。

(カンボジアヘランドセルを贈る委員会委員長)門前昌志

ただいま奉仕活動中！
大阪府 吹田第三ライオンズクラブ「サーブ」

僕の名前は「サーブ」君。生まれたのは2年前の12月。その年の吹田第三ライオンズクラブの会長さんが、「思えない子どもたちの施設におじいさんばかりでノロノロ向かいでも悪かられるだけだ」とって、僕を作ろうと提案したんだ。それまでは寄付を渡して施設さんとお話しするだけだったけれど、僕が一緒に行く子どもたちもずっと触れ合えるようになって、達成感っていうのが湧いたんだって。

クラブには他にもいろんなアクティビティがあるけれど、僕が大好きなのは、前には1170人くらいだったのが、僕の登場で目減りした100人超えを達成したんだ。みんなには子どもたちが集まってくる。その間に子どものお父さん、お母さんと一緒に話しかけられるから、ライオンズのこと説明して理解してもらえらんだって。

僕もクラブのみんなと同じ黄色いベストとライオンズのピン、それに帽子も作ってもらって、式典の時なんかはそれらを着て出席するの。ちょっと緊張するんだけどね。一番うれしいのは、僕が来てからクラブの団結力が高まったって言われること。これからみんなのためにがんばるね！



おねね始めた

「アズノブ・キヤラクター」は、80年代に全国各地で開かれた地方博覧会から広まってきた。そのものはそれ以前からあったが、それが自身の着るものになっただけで、83年1月に開かれた東京アズノブの影響があったのかもしれない。何となく、越域の活性化を図ろうと機軸する地方の自治体や団体によって、地元の名物をモチーフにしたキヤラクターが生まれ、それが広がっていった。そんな「ゆるキャラ」の文化に火をつけたのは、2007年に開催された長崎県展400年の「イモト・キヤラクター」の着作権にやんだ。キヤラクターの着作権使用料を無料にしたことで多数地域に広がり、それがついに全国的なブームを生み出した。このブームは、越域の活性化の願いが込められた「ゆるキャラ」の誕生を促した。次

ゆるキャラの誕生は、各地の自治体や企業が、地域活性化の手段として活用するようになった。2000年頃から盛んになり、各地のゆるキャラは、観光資源として活用されるようになった。また、ゆるキャラは、地域活性化の手段として活用されるようになった。また、ゆるキャラは、地域活性化の手段として活用されるようになった。

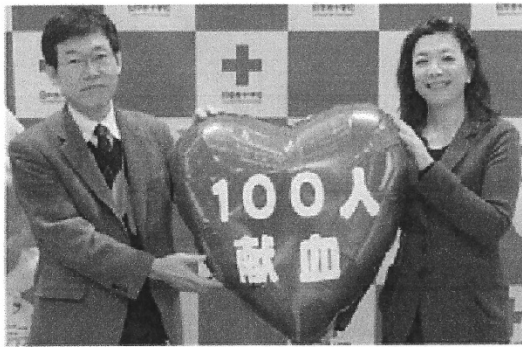
ゆるキャラ大集合

で当地PRに活躍する「ゆるキャラ」。全国的なブームを巻き起こしたゆるキャラで地域活性化に貢献しよう、と、公辦などで地元で新キャラクターを誕生させたライオンズクラブがある。

336 日地区

岡山ハーモニーライオンズ

もんげ〜でーれー！ 献血WEEKで新記録達成



※「もんげ〜」「でーれー」は岡山弁で「すごい」の意

岡山ハーモニーライオンズ(25人)は、岡山西ライオンズのスポンサーにより昨年10月28日に結成された女性会員だけのクラブである。2月16日から22日までの1週間を「もんげ〜でーれー」献血WEEK」と題し、結成記念事業として、献血を呼び掛けた。これは献血者が少なくなる冬場の時期に、岡山県赤十字血液センターの協力で実施したもの。

初日朝早く開いたスターティングセレモニーには岡山県赤十字血液センターの池田所長にもご臨席頂き、瀬原秀美会長が「100人分の献血」を表すハート形の真つ赤な大型バルーンの目録を贈呈した。

これは当クラブ初めての奉仕事業であり、途中、会員の意欲が中折れしないか心配したが、瀬原会長の「100人分の愛をプレゼント」への強い思いが会員の気持ちを支え動かした。こうした会員の思いもあり、最終日には献血者数が100人を超え、最終的に111人という目標以上の実績を上げることが出来た。毎日血液センターの方に

17 LION 2015年5月号

東日本大震災から4年の月日が過ぎたが、その傷痕はあまりにも大きく、大勢の方がまだ苦しみの最中にある。震災では多くの人が亡くなった。当時6歳だった佐藤愛梨ちゃんもその一人だ。愛梨ちゃんのお母さんは「絵本の中で生き続けさせてほしい」と絵本作家宮羽フアティマさんに依頼をした。「命の大切さを伝える絵本」として作られたこの絵本の収益は、東日本大震災、津波での遺児を支援する団体に寄付することになった。

フアティマさんは高崎ライオンズ(関口啓一会長/195人)在籍メンバーの娘。そこでクラブでもこの絵本を通じてアクティビティが出来ないかという話になった。早速、例会にフアティマさんをお招きし、この取り組みを追ったNHKのドキュメンタリー番組を視聴後、資金集めと今後の計画を話した。クラブではこの絵本を幼稚園の教育現場に寄贈して、園児たちに人を思いやる心と命の尊厳、大切さを伝えてもらうことにした。また、それを通じて同世代

333-D地区

群馬県・高崎ライオンズ

命の大切さを伝える絵本 購入の呼び掛け



のお子さんを持つ保護者の方々に絵本を購入して頂こうと考えた。絵本は全国配送可能なアマゾン、群馬県内では紀伊国屋前橋店(ケヤキウォーク内)、ブックマンス前橋、高崎店、宮城県内ではヤマト屋書店(5店舗全て)、金港堂石巻店で購入出来る。一冊でも多く購入して頂ければ被災地支援の寄付額も増える。全国の皆様のご協力もよろしくお願い致します。(IT・PR・情報委員長/ジム・フレッチャー)

我が献血人生

木本 正樹（福岡県・北九州シニア）

昭和39年に大阪市立大学に入学、同時にワンダーフォーゲル部に入部しました。そんな学生生活が始まった直後のこと、ある家族が献血の願いをし

ている記事を新聞で読みました。当時は売血による供血が多く、これは「黄色い血」と言われ品質に問題がありました。大量の輸血を必要とする手術の場合、病院や主治医から必要な血液量を確保するよう要請され、出

来なければ手術もすぐにはしてもらえぬ時代でした。ワンダーフォーゲル部も社会貢献活動をやっていましたので、全面的に協力することになり、30人ほどが大阪日赤で献血しました。この昭和39年6月8日が、私の献血第1回になりました。この年、アメリカのライシャワー駐日大使が、日本国内で暴漢に襲われ刺されるという事件が発生しました。国は全力を挙げて輸血用血液を確保したものの、残念ながら大使はその血液で肝炎を発症してしまいました。

当時、日本は世界一の血液輸入国で、早期に自給自足するよう世界から勧告されていました。大使は大変な親日家で、大騒ぎしないよう日米両国に表明されたそうです。場合によっては深刻な二国間問題になるところであったと聞いております。このことがあって、やっと当時の厚生省も重い腰を上げ、献血制度を法制化、売血を禁止して今日に至っています。

その後、昭和62年に部下を急性骨髄性白血病で失いました。入院期間中の面会は奥さんと私だけに限られていました。本当の病名はごく一部にしか知らせず、偽診断書を作成してもらって本人始め周囲には「再生不良性貧血」で押し通すという壮絶な1年間でした。白血病の治療には供血が欠かせません。これが、私が定期的に献血をする動機付けになりました。

私はABO型、RH型以外にも赤血球や白血球など全ての型を日本赤十字社に登録しました。白血病や緊急時の輸血には可能な限り各型が一致するのが望ましく、そうした際の検査時間短縮のための登録です。適合者の手術時に献血したことも何度かありました。

献血370回を達成した平成6年。現役時代、私はずっと横浜に住んで東京に勤務しており、当時の長洲一二神奈川県知事から表彰を受けました。

4、5年前の福岡県のライオンズ並びに市区町村献血推進関係者合同研修会では、長崎の子どもの急性骨髄性白血病の闘病記録を視聴し、お母さんのナレーションに涙を禁じ得ませんでした。改めて献血の必要性を認識し、当クラブの卓話の時間にもメンバー全員にこれを視聴してもらいました。

平成22年の第44回福岡県献血運動推進大会には、日本赤十字社福岡県支部

イラスト/小川和政



人を、ホタル国際失念の代議員投票で可決

きたら項目の会期変更、ライオン誌のプラタ
ル化を図る移行プラン、LTCF理事会の再
構築などについても説明した。

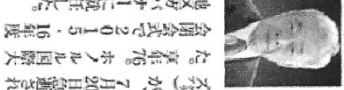
各社、日本ライオン国際委員会は国際理事
LTCF国際理事、国際理事会がライオン、
及び国際協会の周年、GMT、GNT、GTF、
WT、LTCFの各国際レベル委員と各協会
区長で構成されるが、新年度はLTCF
GTF、FWTに異動あり、前年度地制
GTF、FWTに異動あり、前年度地制
GTF、FWTに異動あり、前年度地制

GMF/前年度地制リタイ：鈴木博男、平
グナイ、エロフ、リタイ、東日本、手
正を議長、西日本、丸山正秀を議長
GMF/前年度地制リタイ：鈴木博男、平
グナイ、エロフ、リタイ、東日本、手
正を議長、西日本、丸山正秀を議長

は、地区ガバナーである私の側、大谷博第一副
地区ガバナー、木田健一第二副地区ガバナーが
同席しました。今回の協定締結は全職設置協
会委員の強い働き掛けの下、実現の運びとな
つたもので、単一地区と赤十字血源センターが
献血車で連携協定を結ぶのは全国初の試みで
あります。昨年の岡田・島根県の献血者数は
10万8788人、そのうちライオンクラブの
活動による協力者数は9157人と約1割強
の実績を上げております。今後必ず高増化が更
に進む中で、血液の供給バランスが大きく崩れ
てくる予感を感じております。ライオンク
ラブとして改めて赤十字血源センターとの協
力を強め、地域における献血推進活動の更
な拡充を目指すことが今後の目標です。

竹本純一 337・E地区ガバナー退去

竹本純一 337・E地区ガバナー、兼告ライ
オンが7月30日退任され
た。兼告ライオンが7月30日退任され
た。兼告ライオンが7月30日退任され



兼告ライオンが7月30日退任され

新体制になったLTCF理事会

今年4月の国際理事会におけるライオンク
ラブ国際財団(LTCF)の運営体制再編計画の
案、6月の国際理事会における運営方針改正
を経て、7月1日からLTCF理事会の構成が
改まった。従来のLTCF理事会には国際協
会(LTCF)の国際理事会が含まれていたが、
新体制では左記の構成で3年任期(兼務ある
場合)の任期に併し、LTCF理事が選任さ
れる。この再編に伴い、LTCF理事が選任さ
れる。この再編に伴い、LTCF理事が選任さ
れる。この再編に伴い、LTCF理事が選任さ

2014・15年度ライオン誌日本語版

ライオン誌日本語版編集委員会は、「獅子吼」欄
掲載原稿の中から特に優秀なものを選り、毎
年9月の「ライオン誌月間」にてベスト・エ
ディットとして発表している。14・15年度の受
賞者は左記の通り。
小学4年 島根県・安来市神ノ木小
14年9月号「ライオンと遊ぼう」持田大知
14年9月号「ライオンと遊ぼう」持田大知
14年9月号「ライオンと遊ぼう」持田大知
14年9月号「ライオンと遊ぼう」持田大知
14年9月号「ライオンと遊ぼう」持田大知

会議録

日本ライオン連合会理事 03・32
日本ライオン連合会理事 03・32
日本ライオン連合会理事 03・32
日本ライオン連合会理事 03・32
日本ライオン連合会理事 03・32

336・B地区区長赤十字血液センター

【尾崎博昭】B地区ガバナー7月30日午後
2時半から、岡山市内のイオンモール岡山東来
スクエアにおいて、336・B地区区長岡田崇
男の赤十字血液センターの連携協定締結式が
行われました。式には岡田崇男血液セン
ターの池田和郎所長、島根県赤十字血液セン
ターの佐々木信之所長に出席を頂き、当地区ら
の代表者も出席しました。



赤十字血液センターとの連携協定締結式

解散ラフ

7月1日、北広島市、柳井島、北広島、直江津、広
島、北広島市、島根県、美濃県
【国際委員】
7月10日退任、87歳、02年度、日 336
7月20日退任、73歳、11年度、日 336
8月3日退任、83歳、07年度、日 336
11月1日退任、73歳、11年度、日 336